

日本篆刻家協会会報

第5号 平成22年9月1日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX 072-760-3853
E-mail: info@n-tenkoku.jp

第二十六回日本篆刻展開催

昨年四半世紀の節目を迎え、本年は第二十六回となる唯一の全国規模の篆刻公募展「日本篆刻展」が、五月十八日から二十三日まで大阪天王寺公園内の大阪市立美術館地下展覧会室で開催された。特別展観では丁家秘蔵、丁仁の書画篆刻・その他が壁面、特設陳列台、ガラスケースに分けて多数陳列された。



1. 壁面と陳列台の丁家秘蔵、丁仁の書画篆刻 2. 会場を訪れ作品を鑑賞する高式熊氏（中央）、黄鎮中氏（左）ら訪日団のメンバー 3. ガラスケースには丁仁の書画篆刻・その他
4. 評議員の作品を熱心に鑑賞する参観者 5. 会員・委員の作品

第二十六回日本篆刻展の感想

理事長 山下方亭

— 丁仁を記憶できたか? —

二十五回展という記念展から二年、本年は普通に開催されて特別陳列を「丁仁」の芸術として考えていた。ところが丁如霞さんの構想が盛り上がり希望もエスカレートしてどんどん膨らんでいった。結果は高式熊さんや黄鎮中さん、呉趙さんと呼ぶ事になった。経費はかなりオーバーしたと思うがこの特陳は会員皆様にとつて「丁仁」を知る貴重な展示となったことは疑わない。何事も計画通りにはいかないものであるが瓢箪から駒で結果において素晴らしい展示となつて鑑賞した会員にとっては至福の展観となった。

— 企画は会員の為 —

様々な企画も足を運ばないと向うからはやってこないのである。時間は作るもので皆さん同じ空間に住んでいるのである。

会期の三日目から「丁仁」の解説を急遽作つて配布した。何事にも見せることに親切でなければならぬ。只効率を考えて入賞者リストに挟み込んだのは失敗である。

授賞式に丁如霞さんによる「丁家の人々」の講演をして頂いた事も世間の授賞式とは異なつた企画と言える。人が集まれば勉強する、否、協会の人となるべく教宣活動の場として、それが当協会の特徴と言えるのだろう。出品者祝賀会であるからには皆さん出席して欲しい。出品していない人も出席している。当日の会費についても協会が半分位は負担しているので出席しやすくなつている。

審査

第二十六
回日本篆
刻展の審査
会が三月
二十八日
大阪市
中央会館で
行われた。
理事以上
の役員を
除く二〇
二点を対
象に厳正
公平な審
査により
協会賞四
点、大賞
一点、準
大賞一
八点、優
秀賞一六
点、奨励
賞九一点
、特選二
〇〇点、
秀作賞一
〇六點、
会員推
薦賞八六
點が選ば
れた。



2. 慎重に審査に当たる審査員



1. 審査進行（真鍋井蛙副理事長）の注意事項説明を聞く審査員

授賞式

会期中の五月二十三日の日曜日、ホテル大阪ベイタワーで開催され、全国から三四七人が参加した。下記受賞者にはそれぞれに、その他各賞ごとに受賞者が紹介され代表者に手渡された。



3

梅舒適賞（協会賞）（評議員）

梶川久美子 永井龍法 東尾高岳

足立瑠泉

日本篆刻展大賞（常任委員）

稲垣華扇

日本篆刻展準大賞（常任委員）

竹田石涛 庭田露舟 堀口秀雄

松田静石 山室雅美 加藤静雲

花村秀嶽 竹内立女 川崎白水

西口青咲 今西九郎 井後雅堂

巽聖石 山本恵子 畑間青露

古瀬章石 土井純司 岡田桂舟

日本篆刻展優秀賞（常任委員）

吉田宗里 廣田佳苑 馬景泉

釘田白峰 安田正 石亀明峯

青木嘉代子 長谷川拓石 横井静月

浅良朱華 花房浩佳 豊田恵山

富山希祐



3. 全国から大勢の参加者 4. 梅舒適賞の受賞者 5. 大賞受賞の稲垣華扇氏からの謝辞 6. 祝辞を述べる西冷印社名誉副社長高式熊先生

講演「丁家の人々」

授賞式を記念して特別展観の丁仁の孫に当たる丁如霞女史が「丁家の人びと」と題して講演した。

出品者懇親会

引き続き出品者懇親会が開催され、みんな受賞者を祝福した。来賓紹介、祝辞、梅舒適賞受賞者紹介などが行われた。



12. 開会あいさつする山下理事長
13. 大数二朗大阪府日中友好協会事務局長の音頭で乾杯
14. 祝辞を述べる黄鎮中西冷印社副秘書長



9. 丁如霞氏 10. 著書「丁家の人びと」
11. スライドを使い講演する丁如霞女史（右）の蔣崢氏が通訳

日本篆刻家協会総会

平成二十二年総会が二月十四日、ホテル大阪ベイタワーで開催され二二〇人が出席した。

総会に先立ち
午後一時から
第二回理事會
が開催され、総
会前の準備確認
をはじめ、今後
の運営について
協議された。



午後二時か
ら開催された総
会で、平成二十一年度事業報告、同決
算報告、同会計監査報告、平成二十二
年度事業計画、同予算、役員がいずれ
も原案どおり承認決定された。

本年度の主な事業は次のとおり。

○五月十八日～二十三日
第二十六回日本篆刻展・特別展観
「丁家秘蔵、丁仁の書画篆刻・その他」
(大阪市立美術館)

○六月二十六日～八月二十六日
第二回日本篆刻家協会役員展
(古河市立篆刻美術館)

○八月二十一日～二十三日
第三回中央研究会・講演
「シルクロードの印章」(小田玉瑛先生)



1. 総会に先立ち開催された理事会 2. 全国各地から参加の会員で埋まった総会

「楹聯の研究と鑑賞」(井谷副理事長)
「シーサイドホテル舞子ビラ神戸」
○翌三月一日～六日
日本篆刻家協会北海道展
(札幌市・大丸藤井センター)

総会に引き続き講演会が開催された。講師は高校時代に書道部に在籍した落語家林家染二師匠「笑いを刻む落語の話」と題し、落語を交えた熱弁は益するところが大きかった。



3. 総会に引き続き開催された講演会 4. 熟演する林家染二師匠 5. 参加者が交流を深める懇親会

平成22年度主な役員

顧問	邊見匠匡		
理事長	山下方亭		
副理事長	井谷五雲	尾崎蒼石	平田蘭石
	真鍋井蛙		
代表理事	大村高陵	酒居石莊	小朴圃
	多田龍淵	中島春緑	
名誉理事	大柳東里	久米義山	小林畦水
	駒形蒼岳	田中緑翠	
常務理事	伊佐治祥雲	石原豊玉	市川両僊
	伊藤雅夫	大原邦舟	喜多芳邑
	黄平齋	榊原晴夫	佐川大羊
	南岳泉雲	長谷川帰海	久松蒼雲
	古溝幽蛙	御手洗眉山	保田昌石
	渡邊和琴		
参事	師子堂房翠	高橋北照	二穴碧舟
理事	荒井白扇	池田泥異	出田塘菟
	的場少藍	遠藤米子人	奥田晨生
	加納孝志	北室南苑	草田翠苑
	熊本晴文	黒田玉洲	輿水泥魚
	坂本舜華	鈴木嶺香	武井岳峰
	田中修文	堤白遊	出来芳草
	中村葉舟	早川聴芬	平松晃一
	広瀬大濤	松本翠女	松本岬風
	松本雅至	武藤白嶺	米田黄苑

第二回日本篆刻家協会役員展の開催

第二回日本篆刻家協会役員展が六月二十六日、茨城県古河市の「篆刻美術館」において日本篆刻家協会と古河市教育委員会との共催により開催された。当日は開幕式と記念の研究会が盛大に開催された。



1. 展示会場入口前で行われた開幕式 2. 寄贈作品目録が山下理事長から遠藤教育長に贈られた 3. 会場内の展示状況

4. 研究会で講演する尾崎副理事長 5. 作品指導会の様子

この展覧会は、会期を昨年より一月延長し八月二十六日までの二か月間とし、理事長以下監事までと関東甲信越地区の評議員を含む役員作品の計六十五点は第二十六回日本篆刻展の移動展としての展示である。来館者からは印影のみならず印影と墨書との調和のある表現の素晴らしさに感動の声が挙がっていた。

開幕式は、午後二時から同館展示室前において幹部役員ならびに古河市の関係者を中心に参加者が埋め尽くす中で開催された。主催者の山下方亭理事長、古河市教育委員会遠藤道夫教育長の挨拶につづいて、平田蘭石、真鍋井蛙両副理事長、大村高陵、小朴圃、酒店石荘、多田龍淵、中島春緑の各代表理事、川島春雄文化課長、白井公宏館長、植竹正美係長の紹介があり、正副理事長ならびに教育長の五氏によるテープカットが行われ、協会幹部役員の作品を篆刻美術館に贈呈する作品目録が理事長から教育長に手渡された。



その後会場を市内のホテルに移し、「記念研究会」が協会主催で開催され、会員のほか一般の篆刻愛好家も加わり、当初用意した一〇〇席が不足するほどの盛況ぶりであった。第一部

は尾崎副理事長による「江戸時代の篆刻」(一船載文字資料・印譜資料の受容と篆刻への影響、高芙蓉に見るその一端)と題しての講演が行われた。所蔵品の書画幅、書籍、刻印を展示されたの講演は、篆刻を学ぶものにとって江戸期の印や印人の歴史を学ぶ糸口となり大いに勉強になった。第二部の作品指導会では、四人の講師(平田副理事長、大村・小・多田各代表理事)から参加者各自が持参した印影や印稿等の添削指導を受けた。

引き続き、「記念懇親会」に移り、幹部の役員を文字通り囲む形の中で会員相互の交流をはかる。当初は各テーブルともやや緊張した雰囲気であったが、時間が過ぎていくうちに和気藹々と和やかな雰囲気となり、幹部役員の機知にとんだ話を耳にすることができ楽しい嬉しい会になった。名残り尽きないなか、閉会の挨拶と「関東の二本」で来年は、今年にも増した盛大な第三回展の開催を祈念して幕を閉じた。

(杏壇篆会 青木雄山)

一月課題「富貴」

役員 (井谷五雲選)



踏青



正歩



容庸



祥雲



久美子

常任委員 (伊佐治祥雲選)



无髯



拓石



慶石



九成



直佑



立女



彪



廣津



芝蘭



静雲

委員 (石原豊玉選)



笙鶴



早知子



叢映



幸



蘇西



尚石



康風



玲子



美智子



真波

會員 (市川兩儀選)



八夫



哲舟



明



謙之



蘭翠



梅風



邦子



岳僊



大



外茂一

一般 (伊藤雅夫選)



光雄



石舟



智子



彌太彦



勝山



泰久



博



清光



顔了



保雄

二月課題 「学無止境」

役員 (尾崎蒼石選)



祥雲



祥鳳



董圃



米子人



羊越

常任委員 (大原邦舟選)



立女



静雲



艸丘



素月



竹扇



拓石



斗舟



桂舟



彪



秀雄

委員 (喜多芳邑選)



平峰



翠龍



和代



和代



容史子



晋作



叢映



早知子



朴仙



素翠

會員 (榊原晴夫選)



大



梅風



瑞碩



隆峰



忠義



孝風



剛志



青濤



由紀夫



ヨウ子

一般 (黄平齋選)



保夫



菰田



基彦



顔了



龍生



衛



美名子



公朗



碧翠



勝山

三月課題 「随處樂」

役員 (平田蘭石選)



真弓



踏青



祥鷹



祥雲



祥鳳

常任委員 (佐川大羊選)



学友



艸丘



希祐



静雲



素月



博石



草翠



敏子



京子



実秋

委員 (南岳泉露選)



容史子



平峰



晋作



韶暉



進



墨石



早知子



笙鶴



碧泉



牛石

會員 (長谷川帰海選)



芳泉



行石



邦夫



邦子



洪石



桂水



扇舟



嘉津子



宝樹



翠汀

一般 (久松蒼雲選)



冬雲



忠



公朗



智子



秀子



治子



保夫



顔了



申隆



豊

四月課題 「虚室生白」

役員 (真鍋井蛙選)



祥雲



踏青



祥鳳



克彦



輝代

常任委員 (古溝幽畦選)



章石



草翠



景雲



弘碩



箕山



慶石



見聲



拓石



和香



桂舟

委員 (御手洗眉山選)



平峰



青煌



利之



墨石



牛石



映舟



笙鶴



俊雄



桃華



韶暉

會員 (保田昌石選)



明



青濤



隆峰



忠義



俊悟



英治



剛



守



忠義



穂積

一般 (渡邊和琴選)



顔了



秀華



碧翠



泰久



秀雄



鈴輪



保夫



正和



史郎



理絵

五月課題 「墨趣」

役員 (大村高陵選)



米子人



莊夢



踏青



弘深



芳月

常任委員 (伊佐治祥雲選)



桂舟



箕山



紅泉



龍神



蘭雪



静雲



彪



碧峰



九郎



征

委員 (市川兩僊選)



叢映



翠龍



涛峰



啓子



郁夫



素翠



清嗣



平峰



笙鶴



象堂

會員 (石原豊玉選)



玉峰



彬陽



絹代



孝昌



紀久



明



誠三



真弓



外茂一



守

一般 (伊藤雅夫選)



智子



勝山



顔了



弘子



公朗



永理



史郎



正和



忠



石舟

六月課題 「執事敬」

役員 (酒居石荘選)



祥庵



容甫



祥雲



泰軒



正歩

常任委員 (伊藤雅夫選)



桂舟



章石



汀華



蘭雪



朱華



実秋



慶石



美津子



見啓



江暉

委員 (大原邦舟選)



尚石



利之



朴仙



雄山



翠龍



美智子



澄子



照楓



静山



桃華

会員 (喜多芳邑選)



光洋



明



一清



正明



水雲



大



青濤



恵笙



忠義



智枝

一般 (黄平齋選)



公明



浩子



衛



勝山



畦草



秀華



龍生



桃苑



公一



保雄

第一回アジア芸術文化ハイレベルフォーラム参加報告

理事長 山下方亭

過去二回は中韓による芸術文化フォーラムとして開催されており、今年からアジア芸術文化フォーラムとなり参加国は日本(四名)・インド・インドネシア・マレーシア・シンガポール・フィリピン・ベトナム・台湾。会場は成都天府シエラトンの三階特設会場。私の題は「漢字文化圏における日本の書道教育の現状と対策」である。スケジュール表による会期は五月六日〜七日の二日間、次の様であった。六日・午前九時〜十二時五分・昼食・午後二時〜五時二〇分。七日・午前八時三〇分〜十一時・昼食・午後二時〜五時。錦江劇場とスケジュールが組まれている。正面壇上左翼に同時通訳の入る英語と中国語、韓国語のブースは如何にも国際フォーラムといった雰囲気である。基調講演中、韓一名が行いその後は八〜十名が十分間の講演をしてこのグループが終了と質疑応答が行われるという形式で進んでいく。私の発表は一日目の午後三限目の最後、駱芑凡先生の後である。総数で五十名を越える各分野の発表であつて二日間巨り延々と続き整然と進行された。演題は多様で絵画・書・篆刻・音楽・工芸・考古学・社会問題・映画・テレビ放送と実に多岐に亘っている。日本の参加者四名は私の他、世界的な写真家・久保田博二氏、早稲田大学准教授・河野貴美子氏、武蔵野美術大学教授・西川聡氏である。六日は歓談しながら夕食会。七日、夕方は劇場で中国、韓国の無形文化財の舞台を見る。

二日間ピシリのスケジュールを終えての八

日は観光が組まれており午前中(八時三〇分出発)に四川大地震の震源地、汶川県映秀地区に行き慰霊の献花をした。二十世紀最大の発見と言われた三星堆の黄金の仮面や眼の飛び出した銅像などは記憶している方もあるだろう。金沙遺蹟は成都市内で「金沙博物館」(写真)として広大な公園の中にあり、三階建て半地下の遺蹟は部分的にガラス張りを下を覗けるようになっていて。現在成都の顔として売り出し中で、お薦めしたい博物館である。



この度は中国芸術院の招聘で第一回という記念すべきフォーラムに参加出来たのも日本篆刻家協会という組織あつてのことで、このフォーラムの参加によつて新しく中国芸術研究院との交流が始まる。微力ながら日本篆刻家協会の存在を参加のアジア各国に知らしめたと思われる。このフォーラムに協会から派遣してもらえたことに感謝したい。

当協会も篆刻を芸術として論理的に著述活動を奨める組織にしなければならない。

青鋒忘詠 小林圃

「印の押し方」

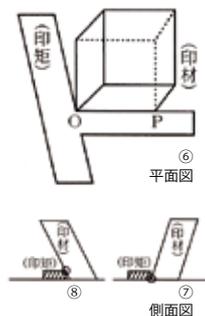
上の印影を見ていただきたい。①は印泥の量が少なく軽い感じがし、②は量が多すぎて重い感じが、③は二度押しをしたものだが、重厚さが感じられる、④は③よりもわずかに印泥の量が少ないため、線のシャープさが強調された、⑤は二度押しに失敗して線がズレてしまった例。

篆刻作品としてみた場合、③か④の印影がよいことはおわかりだと思ふ。①のように印泥の量を少なく軽めにするとは、書画の作品の落款印の場合には、却つてこの軽さが全体の効果を増すこともある。が、重厚な印影が欲しい時に、①のようにになると、これは失敗と言わねばならない。すると印矩を使って二度押しをすることが必要になってくる。

まず押印はガラスの上で行い、雑誌等の上で押印しないことです。台が軟いと線のシャープさが出ません。次に用紙も平らであること、実は紙は平らとは限りません。押したいところを爪などでこすつて平らしてから押印する。これだけで随分押しムラがなくなります。印泥は軽くたたくように満遍なくつけ、押印が終わったら印面に残った印泥を

「二度押し」

すぐに布で拭きとつておく。印面に残った印泥があると次回使用する時に正確な印影が得られませんが、印泥は月に二度程、へうで練ってくださいと説明書に書いてありますが、読んでいますか。



右の図⑥を見ていただく。印影がズレないためには点Oと、OとPを結ぶ線が決まればよい。重要なのは、実はこの線状OPは図⑦のように印矩の下部であり、図⑧の如く印矩の上部で合わせる。ここが支点となり押印がズレることとなる。そこで図⑦のようにするために、予め印材を右側と上部に傾けて磨つておく(⑥)。忘れてしまいがちなことだが、ここで大切なことは、印矩のOPと接する印材の側面が印矩とぴったり合うように平らにしておかなければならないということ。ほんの僅かな狂いで、印影がズレてしまうことになるので特に注意したいところ。実際の押印ですが、まず、一度押しします。そこへ印矩を印材の左下隅へあて、図⑥のようにピッタリと合わせてから、印を慎重に紙から上へあげます。印泥の少ない部分に適量の印泥をつけて、再び図⑥になるように慎重に押しします。理論上はこれだけのことでありますが、実際には僅かなことでズレてしまうものですが、やはりなれるということが必要で、この二度押し技術の身につけると、何度も押し直すこともなく、一枚の紙で正確な印影が得られます。

展覧会の案内と報告

展覧会案内

- ▼不華篆会(酒居石荘)
不華篆会習作展XVIII
「デザイン」として見る篆刻の展開
会期 九月一七日～一九日
会場 伊丹市立工芸センター
同二三日～二六日に丹波市・兵庫県立丹波の森公苑で巡回展
- ▼清友篆会(坂本舞華)
第一二回清友篆刻展
会期 一〇月一日～三日
会場 芦屋市・俵美術館 ギャラリー俵
- ▼齊平篆会(眞鍋井蛙)
第一三回齊平展
「会員による『七十二候』分刻作品展」
会期 一〇月一日～三日
会場 大阪くらしの今昔館
- ▼畦石舎(小朴圃)
第二五回 畦石舎作品展
会期 一〇月二日～四日
会場 京都市・日図デザイン博物館
特陳 画像石拓本
小圃自用自刻印一五〇顆
- ▼遠邇篆会(伊藤雅夫)
遠邇篆会篆刻展
会期 一二月二日～七日
会場 クリエート浜松
- ▼関中印社(平田蘭石)
第一二回 関中篆書・篆刻展
会期 一二月五日～七日
会場 関市文化会館

協会の行事

- ▼爲銘篆会(中村葉舟)
第六回爲銘篆会作品展
会期 一二月五日～七日
会場 大阪くらしの今昔館
二十四節気・七十二候印の分刻展示
- ▼会員個展
吉江翠光 書・篆刻展
会期 九月一八日～二三日
会場 富山県南砺市
福光美術館市民ギャラリー
- 平成二二年度第一回理事会・新年会
一月七日(日)大阪錦城閣
- 第二回理事会
平成二二年度総会
講演会
『笑いを刻む落語の話』(林家染二先生)
懇親会
二月四日(日)ホテル大阪ベイトワ
審査準備会
三月二七日(土)大阪市中央会館
- 第二六回展審査会
三月二八日(日)大阪市中央会館
- 第二六回展作品搬入陳列
五月一七日(月)大阪市立美術館
- 第二六回日本篆刻展
〈特別展観〉丁家秘蔵、丁仁の書画篆刻
五月一八日(火)～三日(日)
大阪市立美術館地下展覧会室
- 第二六回日本篆刻展授賞式
記念講演
『丁家の人々』(丁如霞女士)
出品者懇親会
五月二三日(日)ホテル大阪ベイトワー

- 第二六回展作品搬出
五月二四日(月)大阪市立美術館
- 地方展
「第二回日本篆刻家協会役員展」
六月二六日(土)～八月二六日(木)古河市篆刻美術館
- 第二回篆刻家協会役員開幕式・研究会
『江戸時代の篆刻』(尾崎蒼石副理事長)
六月二六日(土)古河市篆刻美術館
- 第三回中央研究会
『楹聯の研究と鑑賞』(井谷五雲副理事長)
特別講演
『シルクロードの印章』(小田玉瑛先生)
八月二日(土)～三日(月)
シーサイドホテル舞子ピラ神戸
- 企画委員会 随時
- 予定
常務理事会
二月二七日(土)事務所
- 平成二三年度第一回理事会
新年会
一月二六日(日)大阪錦城閣
- 第二回理事会
平成二三年度総会
講演会
懇親会
二月二三日(日)ホテル大阪ベイトワー
- 日本篆刻家協会北海道展
三月一日(火)～六日(日)
札幌市中央区大丸藤井セントラル七階スカイホール
- 審査準備会
企画委員会
三月
- 第二七回展審査会
三月
- 第二七回日本篆刻展
五月
大阪市立美術館地下展覧会室

編集後記

☆ゲリラ豪雨の梅雨が明けたと思ったら連日の猛暑日、日本の今年の夏(六月から八月)の平均気温は、平年を一、六四度上回り、史上最高の暑い夏と気象庁の解析で分りました。健康管理が第一です。参議院選挙の後のねじれ国会、民主党の代表戦、菅が小沢か、日本の政治の行方は? ☆日本篆刻家協会は山下方亭理事長の体制の下、ホームページも立ち上がりました。総会、篆刻展の授賞式では外部から招聘した林家染二師匠、丁如霞先生の講演会が行なわれ、古河篆刻美術館での役員展では内部の尾崎副理事長の講演会が行なわれました。協会は進化しています。 ☆小朴圃先生の「青鏡忘詠」を掲載、ご自身の作品製作の鈴印は二度押しをなさっているとお聞きしました。慣れることが必要と書いておられます。 ☆すみからすみまで読んでいただける会報でありたいと編集部は頑張っています。(葉)

編集・会報部
酒居石荘 榊原晴夫 中村葉舟
木村容庸 内田真弓
お気づきのこと、ご意見など事務所までお寄せください。
FAX: 072-760-3853
MAIL: info@n-tenkoku.jp